



中L研だより

令和6年度 6月号 発行 中学校LD等支援教育研究会



～ 中L研総会報告 ～

6月12日（水）、総合教育センターにて 中L研総会を行いました。
非常に暑い中、総会に来ていただき、ありがとうございました。

中L研 第一部 視察報告

総会に先立ち、総合育成支援課の大藪晶指導主事からのご挨拶の後、山科中学校
通級担当 川村昌広先生より昨年度の11月に行かれた舞鶴市立城南中学校の視察
の報告がありました。



学校の課題改善のために取り組まれている「教育のユニバーサルデザイン」
をご紹介いただきました。

「施設環境」「人間関係」「授業」そして「家庭」の支えをあげ、城南スタイル
として小中一貫の取り組みをされています。



① 「施設環境」のユニバーサルデザイン ～ 学習環境の整備 ～

落ち着いた生活環境を整え、集中しやすい環境を作る。

例：授業の約束を明確にして教室掲示、掲示物は前面に貼らない、時間割は見やすく、
プリント類を捨てさせない、机を整頓する

② 「人間関係」のユニバーサルデザイン ～ 一人一人の実態を把握した指導 ～

例：2分前のベル着・準備、もし忘れた物があった場合の授業を受けられる準備、
机上の物の配置への意識（書きやすい位置にノートを置く等）、肯定的で具体的な言葉かけ

③ 「授業」のユニバーサルデザイン ～ 授業改善 ～

学習者の目線（子どもの学びにくさから考える）に立った授業改善。

例：授業の見通し（本時の目標、流れ、重要ポイントの提示）、タイマーの活用、
板書やノートの工夫（黒板に仕切り棒をはる、板書とプリントを連動→「どこに書くの？」
という質問がなくなった→問題に取り組めるようになった→授業に積極的になった）。
授業のアンケート→今後の改善につなげる。

④ 「家庭」の支え

家庭との連携（学校の様子を正確に伝える）→相互に高めあう関係づくり。どちらも必要である
という視点、チームでの関りを大切にする

どの取り組みもとても参考になるものでした。

中し研 第二部 総会

副部会長の桃陽総合支援学校校長 長谷川先生からのご挨拶の後、今年度の部会長、副部会長のご紹介がありました。



部会長 石田裕之（栗陵中学校校長）

副部会長 長谷川亜美（桃陽総合支援学校校長） 菊地順維（梅津中学校校長）

山口達也（向島東中学校校長） 野村一真（松原中学校校長） 森茂昭（下京中学校校長）



次に昨年度の幹事長の衣笠中学校の小山先生より昨年度の事業報告及び予算決算報告がありました。

続いて今年度幹事長の伏見中学校の玉置先生より挨拶と今年度の事業計画案及び予算案を提示し、会員の方から承認をしていただきました。また、LD等支援教育研究部会総則案についての話の中で、第4条（5）に「個別の指

導計画」の研究部門の設置を新たに追加したことの報告がありました。

最後に今年度の役員の紹介があり、総会を終了しました。



本年度も「よりそい ～連携から協働へ～」をテーマに、LD等支援教育の充実と発展を図る視点にたち、教育的ニーズのある子どもたちを誰一人取り残さない支援の在り方について研究を進めてまいります。

中し研 夏季研修会のお知らせ



日時： 令和 6年 8月 6日（火） 9：30～12：00

場所： 下京中学校

内容： 研究発表 個別の指導計画研究部会より

講演 「通常学級における特別支援教育（仮）」

講師 京都教育大学 教育創生リージョナルセンター機構
総合教育臨床センター長 相澤雅文 教授